

# 保育所実習における学生の自己評価からみた実習評価の関係

— 集計ソフトを活用して —

A Study Comparing Students' Self-Evaluations  
with that of the Child Care Training of Nursery Schools.

加藤 房江  
(こども学科 准教授)

**要旨** 本研究では、保育所実習の充実を図るために実習終了後に継続的に学生の質問紙による調査を行っている。質問紙の収集後の集計等において効率的な方法を探る中で、集計ソフトを試してみた。集計ソフトを活用することで、保育所実習の調査をスピーディーに集計することができ、学生の現状や改善点の把握ができた。学生の自己評価と実習園からの実習評価の関係では、高評価の学生は自己評価を低く見積もる傾向があり、逆に低評価の学生においては、高く自己評価する傾向がわかり、実習におけるリスクの高い学生を予測し、個別に指導等の底上げの必要性があると考えられる。

【キーワード：キーワード：保育実習指導 集計ソフト 実習評価】

## I. はじめに

本学では、保育所前期実習の直後と保育所後期実習の直後に紙ベースで質問紙の記入、回収を継続的に行ってきた。しかし、これからは、教育現場の中で、様々なエビデンスが必要になり、多くの質問紙調査を行い、調査する機会が増えてきている。常々効率よく質問紙の集計を試みたいと思っていたところ、H29年度、A県の教職員研修会にて、集計ソフトを紹介していただいた。集計ソフトとは、インターネット上で、質問紙を作成し、そのURLやQRコードを対象者に読み取ってもらう。それをネット上で回答、発信元に返信することで、多くの情報を効率よく回収できる仕組みである。特に、地理的に離れているところで活動する学生の実態を把握する必要性において、質問紙の集計に集計ソフトを有効活用するメリットがあるようだ。そこで、本学の実習指導における学生の質問紙の集計にも活用し、自己評価や実習評価との関係を検討し、今後の指導に役立てるとともに、仕事の効率化を図ることを目的として試みた。

## II. 方法

1. 調査対象 A県内のB短期大学に在籍する保育者志望学生の2年生116名を対象に実施した(Table1)。

また前半後半実習に協力いただいた、延べ224園での実習の評価表を活用した。

### 2. 調査時期

第1回平成30年7月(前半実習終了後)

第2回平成30年9月(後半実習終了後)

3. 調査手続き 集計ソフトを活用した質問紙では、筆者が担当する保育実習指導I IIの授業内にて、実習の振り返りの時間を活用し実施した。予め質問内容を作成したQRコードを学生の携帯のカメラ機能で読みとり、回答後送信してもらった。調査参加への同意と口頭にて伝達し、承諾を得た。学生の自己評価では、前半実習では116名、後半実習では104名だった。実習園の評価も前半実習では116名、後半実習では108名であり、Table1に示す(項目により、回答数が100名の場合がある)。

実習に協力いただいた延べ224園での実習の評価表については、集計ソフトは使用しておらず、エクセルにて集計を行った。

4. 調査内容 集計ソフトでは、5000円の料金で、3か月利用できるプランにて質問内容の作成を行った(Figure1)。質問内容では、保育所実習の前半実習と後半実習共通の評価である9の項目と実習の感想や気づきについて質問した項目で、

集計ソフト上限の10に当てはまる内容で検証した (Figure2)。

<実習態度の項目>

- 1) 「仕事に関して責任感や積極性がある」
- 2) 「明るさや協調性」

3) 「挨拶や正しい言葉遣いができる」

4) 「勤務上の諸注意を守る」

<子ども理解の項目>

- 5) 「発達段階の理解」
- 6) 「子ども一人ひとりの個性の把握」

Table1 実習日程と実習園・実習学生の評価数

実習	日程	評価の種類	人数
前半実習	6月下旬～7月上旬	自己評価	116名
		園の評価	116名
後半実習	9月上旬～中旬	自己評価	104名
		園の評価	108名



Figure1 集計ソフト Questant の料金プラン

7) 「子どもの友だち関係の理解」

<保育技術の項目>

- 8) 「子どもとのかかわり方」
- 9) 「適切な言葉かけやかかわり説明の仕方」の1)から9)の項目において、「優れている」「やや優れている」「ふつう」「やや劣る」「劣る」の5段階で評定を求めた。

<実習を通しての感想等>

10) 「実習の感想や気づき」について自由記述での記載を求めた。前半実習の学生の自己評価は116名、後半実習では、学生の自己評価104名で、複数回答となっている。

### III. 結果

1. 実習態度の項目の結果

1) 「仕事に関して責任感や積極性がある」に関して (Figure3), 前半実習の学生の自己評価において、「優れている」9人8.0%, 「やや優れている」48人41.0%であり、両方合わせても、57人49%であった。実習園の評価では、「優れている」35人30.2%, 「やや優れている」33人28.4%を合わせると、68人58.6%を占めており、実習園での評価は高めで、学生は自己評価を低く見積もっていた。前半実習の自己評価の「やや劣る」は3人3.0%だったが、実習園の評価では「やや劣る」11人

保育所実習における学生の自己評価からみた実習評価の関係

9.5%と高く、ズレがみられた。後半実習の学生の自己評価では、「優れている」6人6.0%と前半実習より低くはなるものの、「やや優れている」57人55.0%と高まり、ふつうの評定から、「やや優れている」に向上している。また、「やや劣る」や「劣る」と自己評価した学生は0人0.0%であったが、実習園の評価では「やや劣る」5人4.6%と自己評価よりも実習評価の方が低かった。

2)「明るさや協調性」に関して (Figure4), 前半実習と後半実習の学生の自己評価では、全体的な差はみられない。実習園の評価では、前半実習の「優れている」29人25.0%,「やや優れている」39人33.6%,後半実習の「優れている」29人26.9%,「やや優れている」41人38.0%と高く評価されている。低評価の学生は、前半実習の自己評価で、「やや劣る」6人5.0%,後半実習では、「やや劣る」3人3.0%と向上しており、「劣る」0人0.0%であった。一方、

実習園の前半実習評価では、「やや劣る」7人6.0%,「劣る」1人0.9%だった。後半実習評価では、「やや劣る」4人3.7%,「劣る」1人0.9%で「やや劣る」と評価された学生は改善されているものの、「劣る」と評価された学生の「明るさや協調性」の改善はみられなかった。

3)「挨拶や正しい言葉遣いができる」に関して (Figure5), 前半実習の学生の自己評価において、「優れている」15人13.0%,「やや優れている」55人47.0%と60%の学生は、良い評価をしている。後半実習の自己評価でも、「優れている」21人20.0%,「やや優れている」54人52.0%と向上している。前半実習の実習園の評価は、「優れている」47人40.5%,「やや優れている」35人30.2%と70%以上の高評価である。後半実習の実習園の評価では、「優れている」49人45.4%,「やや優れている」37人34.4%と80%近くの高評価に向上

**保 育 実 習 評 価 表 ( 前 半 )**

埼玉純真短期大学

保育所(園)名		所長(園長)名	印				
		実習担当者名	印				
学籍番号		実習期間	前半:平成 年 月 日～ 月 日				
実習生氏名							
項目	評価	5	4	3	2	1	
実習態度	仕事に関して責任感や積極性がある						
	明るさや協調性						
	挨拶や正しい言葉遣いができる						
	勤務上の諸注意を守る						
子ども理解	発達段階の理解						
	子ども一人ひとりの個性の把握						
	子どもの友だち関係の理解						
保育技術	子どもとのかかわり方						
	適切な言葉かけや説明の仕方						
保育者質として	表情の豊かさや子どもへの愛情、思いやり						
	情緒、感情の安定性						
	誠実さや明朗性						
総合所見	総合評価						

↑

・項目別評価の基準 : 5-優れている、4-やや優れている、3-ふつう、2-やや劣る、1-劣る  
 ・総合評価 : 当てはまる評価に○をお付けください。

Figure2 実習の評価の10の項目

しており、自己評価と20%も低く見積もっている。また、低評価である「劣る」が前半実習では、1人0.9%だったが、後半実習の実習園の評価では、「劣る」は0人0.0%に改善していた。「やや劣る」に該当した学生は改善しておらず、自己評価を高く見積もっていた。

4)「勤務上の諸注意を守る」に関して (Figure6), 前半実習の学生の自己評価と後半実習の自己評価において、「優れている」31人31.0%、「やや優れている」53人53.0%と80%以上の高い評価で変化はなかった。前半実習の実習園の評価では、「優れている」44人38.5%、「やや優れている」34人29.8%と68%以上の高い評価だった。後半実習の実習園の評価では、「優れている」48人44.4%、「やや優れている」33人30.6%と75%と向上し、高評価が得られた。しかし、自己評価では、「やや劣る」や「劣る」は、0人0.0%だったが、前半実習の実習園の評価では、「やや劣る」7人6.1%、「劣る」1人0.9%であり、後半実習の実習園の評価では、「やや劣る」2人1.9%、「劣る」1人0.9%と向上するものの、「やや劣る」や「劣る」と他己評価された学生の認識のズレがみうけられた。

2. 子ども理解の項目の結果

5)「発達段階の理解」に関して (Figure7), 前半実習の学生の自己評価において、「優れている」0人0.0%、「やや優れている」23人23.0%とかなり低く評価しており、後半実習の学生の自己評価においても、「優れている」3人3.0%、「やや優れている」24人24.0%と30%まで届かない低い自己評価であった。前半実習の実習園の評価では、「優れている」15人13.0%、「やや優れている」28人24.3%、後半実習の実習園の評価では、「優れている」は18人16.7%、「やや優れている」36人

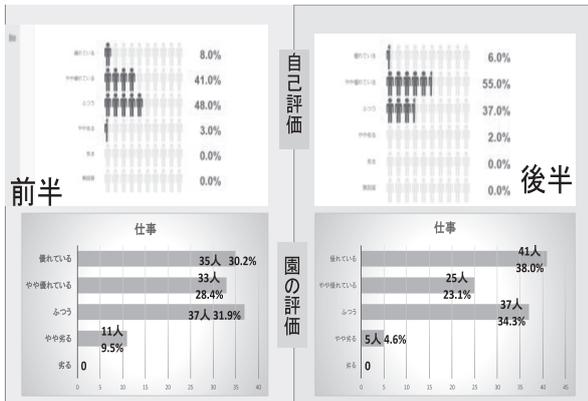


Figure 3: 実習態度 1) 仕事に関して責任感や積極性がある

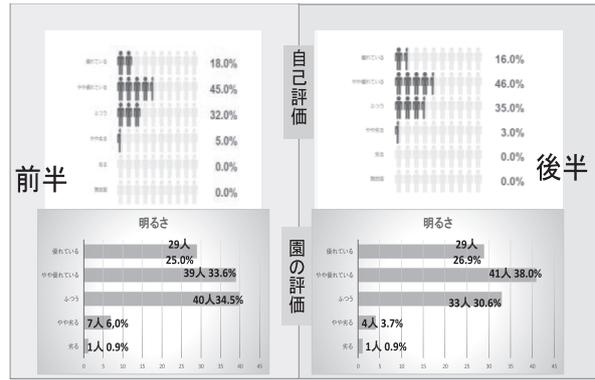


Figure 4: 実習態度 2) 明るさや協調性

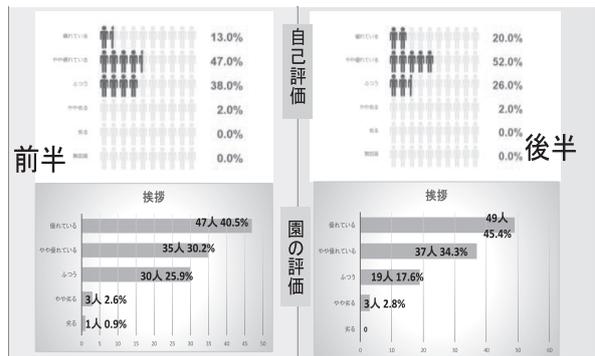


Figure 5: 実習態度 3) 挨拶や正しい言葉遣いができる

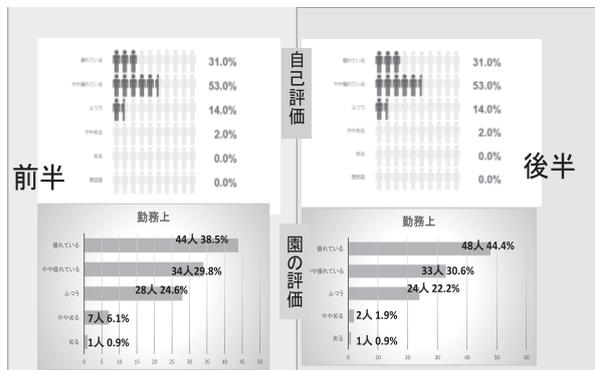


Figure 6: 実習態度 4) 勤務上の諸注意を守る

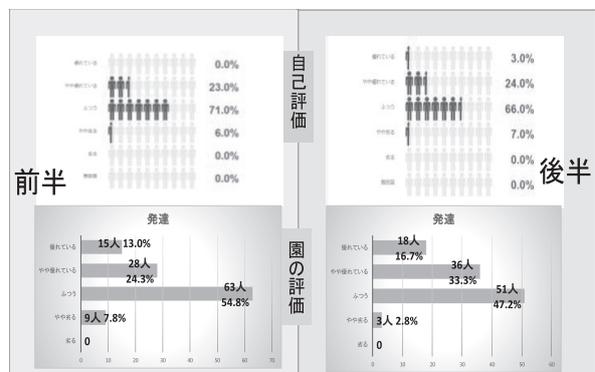


Figure 7: 子ども理解 5) 発達段階の理解

33.3%と50%の学生は高評価であった。

6)「子ども一人ひとりの個性の把握」に関して (Figure8), 前半実習と後半実習の学生の自己評

価では、「優れている」4.0%と低いが、「やや優れている」45%を合わせると50%の自己評価であった。前半実習の実習園の評価では、「優れている」15人12.9%、「やや優れている」23人19.8%、後半実習の実習園の評価では、「優れている」11人10.9%、「やや優れている」34人31.5%であり、42.4%と向上した。「優れている」学生に着目すると、実習園の評価は、前半より後半の方が低まったものの、自己評価よりも実習園の方が高く評価していた。しかし、全体的にみると自己評価よりも実習園の評価が低い結果となり、50%以上の学生が「ふつう」の評価に含まれていた。

7)「子どもの友だち関係の理解」に関して (Figure9), 前半実習の学生の自己評価では、「優れている」2人2.0%、「やや優れている」29人29.0%であった。後半実習の自己評価では、「優れている」4人4.0%、「やや優れている」33人33.0%と向上しているが、前半、後半実習とも、60%近い学生は「ふつう」と評価していた。前半実習の実習園の評価では、「優れている」10人8.7%、「やや優れている」24人20.9%、後半実習の実習園の評価では、「優れている」9人8.8%、「やや優れている」32人29.6%の38.4%である。前半の評価よりも10%程度上昇しているが、60%程度の学生に対し「ふつう」と評価しており、「やや劣る」の評価を含め自己評価に近い結果となった。

### 3. 保育技術の項目の結果

8)「子どもとのかかわり方」に関して (Figure10), 前半実習の学生の自己評価では、「優れている」6人6.0%、「やや優れている」40人40.0%の46%であり、後半実習の自己評価では、「優れている」8人8.0%、「やや優れている」43人43.0%の51%に向上している。前半実習の実習園の評価では、「優れている」22人19.0%、「やや優れている」46人39.7%の58.7%であった。後半実習の実習園の評価は、「優れている」28人25.9%、「やや優れている」45人41.7%と、67.6%に向上している。「優れている」の評価の割合が高まり、自己評価よりも実習園での評価が高い結果が得られた。

9)「適切な言葉かけや説明の仕方」に関して (Figure11), 前半実習の学生の自己評価は、「優れている」8人8.0%、「やや優れている」41人41.0%の49%であった。後半実習の自己評価では、「優れている」2人2.0%、「やや優れている」29人

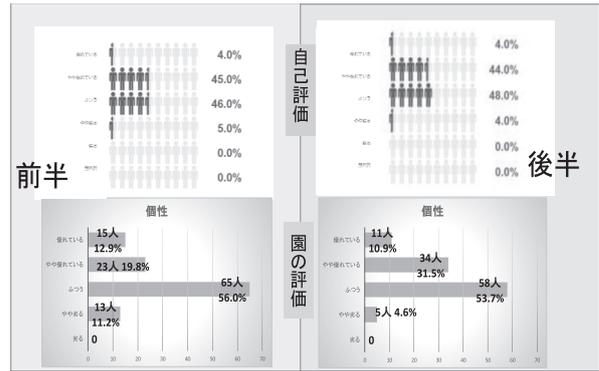


Figure8 : 子ども理解 6) 子ども一人ひとりの個性の把握



Figure9 : 子ども理解 7) 子どもの友だち関係の理解

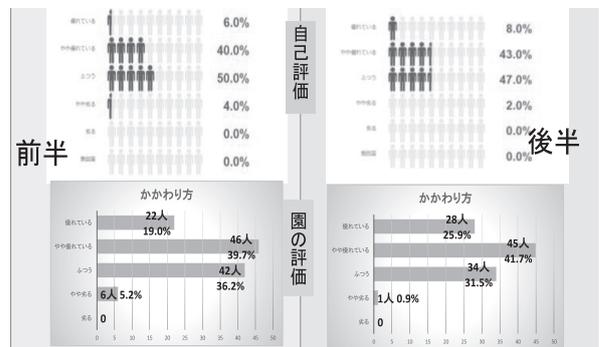


Figure10 : 保育技術 8) 子どもとのかかわり方

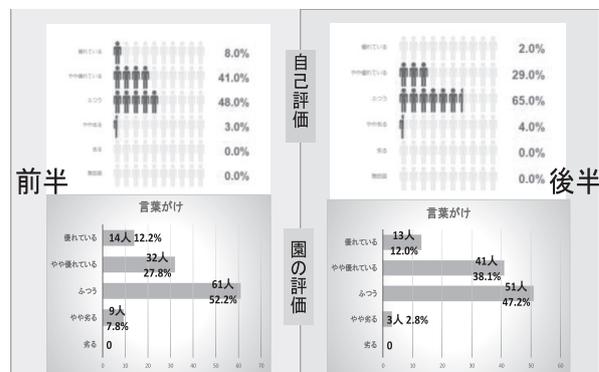


Figure11 : 保育技術 9) 適切な言葉かけや説明の仕方  
29.0%の31%となり、前半実習よりも後半実習の方が低い自己評価となった。しかし、前半実習の実習園の評価では、「優れている」14人12.2%、「や

や優れている」32人27.8%の40%が高い評価であった。後半実習の実習園の評価でも、「優れている」13人12.0%,「やや優れている」41人38.1%で、50.1%と向上しており、学生の自己評価は低く見積もられた結果となった。

10) 「実習の感想や気づき」について自由記述については、良くできた点・学べた点は、198点で

あり、内容についてはTable2に示す。難しかった点のコメント数は57点で、内容についてはTable4に示す。後半実習の良くできた点と学べた点のコメント数は195点で、内容についてはTable3に示す。難しかった点のコメント数は28点で、内容についてはTable5に示す。

項目	コメント	コメント数
実習態度	楽しく充実した実習ができた	40
	後半実習も頑張りたい	21
	活動等を積極的に頑張れた	8
	先生方をみて真似ることで学ぶことができた	4
	積極性が大事だとわかった	2
	障がいをもつ子にたくさん声がけできた	1
子ども理解	発達段階の違いが学べた	26
	言葉が上手く話せなくても汲み取ることの大切さが分かった	3
	子ども達のがびのびと生活していた	1
	発達にあわせた援助や見守りが大切	1
	暑いので、体調管理が大切	1
保育技術	援助やケアの仕方を学んだ	14
	子ども達とたくさんコミュニケーションがとれた	13
	幼稚園との違いが学べた	9
	子どもが心を開いてくれた	6
	保育の内容が学べた	6
	一日の流れが理解できた	4
	行事がたくさん経験できた	3
	工夫した読み聞かせが大切	1
資質	乳児が可愛かった	7
	自分の改善点や課題が見つけた	5
	実習を通し、保育所に就職したいと感じた	3
	なりたい保育者像の目標ができた	1
	先生が叱るのは安全のためだ	1
	先生方や保護者とのかかわりも大切	1
その他	先生に丁寧に指導していただいた	7
	良い園に恵まれた	4
	先生に褒めていただいた	3
	給食が美味しかった	2

保育所実習における学生の自己評価からみた実習評価の関係

Table3 後半実習での感想気づき等（良くできた点・学べた点） (N=104)

項目	コメント	コメント数
実習態度	楽しく実習ができた。	14
	自信をもって取り組めた	1
子ども理解	発達に合わせた援助を学んだ	9
	発達が理解できた	4
	子ども達の行動を先読みして動けた	1
	優先順位や子どもの様子で動けた	1
保育技術	子ども達とたくさんコミュニケーションがとれた	28
	実践が身についき、深い学びできた	26
	責任実習が上手くいった	20
	授業が活かされた	4
	ピアノを頑張った	3
	全員の子とかかわるようにした	2
	絵本がたくさん読めた	2
	保育技術が上がった	1
日誌が上手く活用できた	1	
資質	貴重な経験ができた	10
	課題が見つかった	9
	今回の学びを就職して活かしたい	4
	子どもが可愛かった	2
	子ども達が覚えていてくれた	2
	自分の保育観がつけられた	2
	前期よりも学ぶことが多かった	1
	やりがいを感じた	1
	前期実習よりも気持ちのゆとりがあった	1
	コミュニケーションの大切さがわかった	1
行事の経験ができた	1	
その他	先生に丁寧に指導していただいた	14
	前半の反省が活かされた	12
	先生に褒めていただいた	5
	就職して頑張りたいと思った	5
	先生方をみて真似ることで学ぶことができた	3
	失敗した分たくさん学ぶことができた	2
	疑問点は聴いたが、最後は自分の感性だと思った	1
	先生方とコミュニケーションがとれた	1
体調管理ができた	1	

Table4 前半実習での感想気づき等（難しかった点） (N=116)

項目	コメント	コメント数
実習態度	積極性に欠けていた	6
	素直さが欠けたり，自分の行動のまずさ	2
子ども理解	個々の理解やかかわりが出来なかった	2
保育技術	援助や言葉がけが上手くいかなかった	11
	乳児とのかかわりが難しい	5
	トラブルの対応が難しかった	2
	活動が上手くいかなかった	2
	ミルクをあげるのが怖かった	1
	書くことが多く寝不足	1
資質	初めての保育所実習で不安や緊張があった	15
	自信がなくなり，辛かった	4
その他	指導に具体性がなくどうしてよいか分からない	2
	慣れない雑用を園の特殊な保育内容に戸惑った	2
	先生とコミュニケーションがとれない	1
	給食の量が多い	1

Table5 後半実習での感想気づき等（難しかった点） (N=104)

項目	コメント	コメント数
実習態度	積極性に欠けていた	1
子ども理解	発達段階の理解が乏しい	1
保育技術	責任実習で苦戦した	6
	子どもへの説明が難しい	3
	人数が多くまとめるのに苦戦した	1
	指導案の手直しが何度もあった	1
	援助や声かけが上手く出来なかった	1
資質	責任実習の不安が大きかった	5
	緊張した	2
	自分が本当の保育者になれるか不安である	2
	失敗を恐れ，行動にブレーキがかかった	1
	準備不足だった	1
その他	新たな実習先で，1から覚えた	1
	何をしても指導を受け，自信を失くした	1
	やりづらい部分があった	1

#### IV. 考察

##### 1. 各項目から見た学生の自己評価と実習園の評価との関係

実習態度の「仕事に関して責任感や積極性がある」「明るさや協調性」「挨拶や正しい言葉遣いができる」「勤務上の諸注意を守る」では、実習園の評価よりも、「優れている」「やや優れている」と評価している学生の自己評価が低く見積もる傾向にある。しかし、実習園では、それよりも高く評価されており、おおむねできていると推察される。反面、「劣る」「やや劣る」の低評価に該当している学生は少数ではあるものの園の評価よりも自己評価を高く見積もる傾向にあった。これは、実習理解度や到達目標の再確認を行うメタ認知モニタリングが低めであるがゆえ、自覚が薄いことが推察された。前半の評価を聞き自己を振り返ることで、初めて自覚し、後半やや改善が見られる。おおむね、実習態度の項目では、普段の生活面に関連している部分も多いので、前半から後半にかけて全体的に改善がみられた。

子ども理解の項目の自己評価では、他の項目との比較において、一番苦手と感じている項目であり、「発達段階の理解」は、かなり低く評価している。「子ども一人ひとりの個性の把握」では、前半・後半実習ともに、実習園の評価は、自己評価よりも高評価の学生を低く評価しており、大半は「ふつう」の評価に含まれている。しかし、実習園の他の項目の評価よりは、低いものの自己評価よりもおおむね高い評価であり、学生も自分自身のことをおおむね正確に捉えているといえる。

子ども理解については、個々の子どもの発達段階を理解しないと把握できない内容である。保育所実習は、0歳から就学前の幅広い年齢と、実習するクラスも2日ずつ入るなど短期間では、個々の子どもの発達段階の理解や個性の把握は、難しい面が伺える。これは、牛込<sup>2)</sup>の研究においても学生の「発達段階の理解」が低い評価となっており、普段子どもたちとのかかわりが少なく、小さい兄弟が居ないなど、実践的なかかわりの乏しい学生にとって難しい項目といえ、なかなか改善できていない。学生自身の意識を高め、子どもと定期的にかかわる活動やボランティアなどに活発に取り組めるような働きかけも必要といえる。

保育技術の自己評価においても、苦手と感じて

いる項目であり、「子どもとのかかわり方」では、「優れている」「やや優れている」と評価している学生の自己評価において、低く見積もる傾向にある。一方、実習園では、それよりも高く評価されており、後半実習においてもより高く評価していることから、おおむねできていると推察される。

「適切な言葉かけや説明の仕方」では、前半実習と後半実習の自己評価を比較して、「優れている」「やや優れている」がこの項目のみ減少している。後半実習では、責任実習等の自らの積極的なかかわりが必要となる場面が求められる。子どもたちの前に立ち、活動を進めていく中で、適切な言葉かけやかかわりについて、振り返りや反省、実習園でのご指摘などを踏まえ力不足を感じ、前半実習よりも後半実習の方が低い自己評価となったのではないかと推察される。園の評価では、後半では、「やや優れている」が増加傾向にあり、改善がみえる。幼稚園実習の経験や学生の努力を通し、保育技術は向上していると思われ、実習園でも普段の努力を評価してくださっているのではないかと推察された。

##### 2. 実習を通しての感想等の項目

前半実習の、良くできた点と学べた点のコメント数は198点である (Table2)。コメント数では、実習態度が76と一番多く、「楽しく充実した実習ができた」「後半実習も頑張りたい」「活動等を積極的に頑張れた」などがあげられ、積極的に楽しく実習に臨めた様子がわかった。次に、保育技術が56のコメント数であり、「援助やケアの仕方を学んだ」「子ども達とたくさんコミュニケーションがとれた」「幼稚園との違いが学べた」「子どもが心を開いてくれた」「保育の内容が学べた」等があげられ、初めての保育所実習に不安を抱えながらも確実に多くのことを学び、自信へと繋がっていくコメントとなっていた。後半実習の良くできた点と学べた点のコメント数は195点である (Table3)。保育技術の項目の自己評価では低く見積もったものの、後半実習のコメント「良くできた・学べた」のコメント数が増えている。実習園では、それなりの評価を得ていた内容と一致するものであることがわかった。次に、その他の項目で、「先生に丁寧に指導していただいた」「前半の反省が活かされた」「先生に褒めていただいた」などがあげられ、実習先で先生方に丁寧に指導していただい

たり、先生方とコミュニケーションがとれたことにより、実習や自分に自信が持てたのではないかと考える。それが、「就職して頑張りたいと思った」のコメントにも繋がっていることが推察され、実習で認められ、自信がなくなかで、近い将来の保育者像が具体的に描けたのではないかと推察する。滝川<sup>6)</sup>のいうように、実習園での評価のためのルーブリック（規準）が無いので、実習先により厳しい基準での評価をする場合もあり、また、その逆に緩やかな基準の場合もある。先生方に良くできたところを褒めていただいて、評価していただけたことで、自信もつきながら実習に臨み、精神状態の安定がかなり影響していることが、自由記述からも読み取れた。

前半実習の、難しかった点のコメント数は57点である（Table4）。中でも資質にあたる「初めての保育所実習で不安や緊張があった」「自信がなくなり、辛かった」が多めのコメントで、初めての保育所実習で不安や緊張を強く感じる学生が浮き彫りになった。また、保育技術の「援助や言葉かけが上手くいかなかった」「乳児とのかかわりが難しい」「トラブルの対応が難しかった」があげられており、小さい子とかかわる経験の乏しさと初めての保育所実習という不安感と深く関連していると思われる。

後半実習難しかった点のコメント数は28点である（Table5）。保育技術の「責任実習で苦戦した」「子どもへの説明が難しい」や資質の「責任実習の不安が大きかった」「緊張した」という責任実習に対する重圧や上手くいかなかったことでの難しさがあげられていた。

学生にとって、責任実習が上手くいくかいかないかは、精神的にかなり大きな部分を占めている。

### 3. 集計ソフトを使用して

メリットは、学生の自己評価の部分の集計が楽にできる。特に、感想・気づきの自由記述のところは、データの保存が早くできることであり、集計ソフトを使用する上での一番のメリットであると感じる。集計したデータの統計内容をスピーディーに作成することができ、学生に現状や改善点の提示ができる。デメリットは、現在の料金設定では、質問数も限られる。多くの機能が使えるともっと作業できる容量も増え、活用の幅も増えることが推察される。しかし、多くの機能を使用

しようとする人数の割合にしては、料金が高くなるなどがあげられる。本学では、100人～150人程度の学生のサンプル数なので、もっと多くの学生のデータを使用する場合においては、有効活用できると考える。

## V. 結論

学生の自己評価と実習園の評価との関係では、全体的にみると、前半実習から後半実習にかけて、「ふつう」から、「やや優れている」に底上げの評価をしている。園の評価では、学生の自己評価よりも高く評価をしており、後半では、「やや優れている」から「優れている」と評価されている学生が増えている。保育所実習は、施設実習や幼稚園実習での多くの経験や大学での授業を通し、学生の保育技術の向上、保育マインドが培われてきていると思われる。実習園でもその努力を評価してくださっていることが伺えた。

また、全体的に高評価の学生は、自己評価を低く見積もるが、実習園の評価は高い傾向がある。学生や園評価が高かったのは、「実習態度」の項目である。次は、保育技術であるが、「適切な言葉かけや説明の仕方」においては、自己評価の前半より、後半の方が低まっており、部分実習や責任実習を経験する中で、自分を見つめなおして厳しい評価をつけていることが伺える。高評価の学生は、実習に向けしっかりと準備しており、すこしの失敗でもカバーできる余裕がある。また、自己評価も低めに見積もり、更なる向上心をもって取り組んでいる様子が伺える。

しかし、逆に低評価の少数の学生においては、園の評価との比較において、どの項目も高く自己評価する傾向がわかった。こちらに該当する学生の実習の理解度や自身の到達目標の再確認を行うメタ認知モニタリングが低めであることが伺えた。低評価の学生においては、意識の低さや準備不足に加え、コミュニケーション能力の低さや実習日誌、指導案の作成に苦戦をしている。文章の表現力の乏しさも実習が大変に感じる要因である。これらの学生においては、学内で情報共有し、国語力の向上を図っていくことが重要である。本学では、日本語検定4級に合格することが、実習資格審査基準になっている。実習においては、論理的思考を使って子どもや保育者の動きを見取りながら、

記述していかなければならない。この日本語検定においても吟味し、保育実習で使われる漢字や場面を多く取り入れた内容への検討が学生にとっても有益になっていくと考える。

実習指導においては、豊富な実践例や指導計画の立て方について、繰り返しの指導を行うことも有効かと思われるが、授業時間との兼ね合いが課題となる。併せて、子どもの実態に合わせた指導計画を先生方と相談しながら、進めていくコミュニケーション能力の向上も必要である。

実習におけるリスクの高い学生を予測し、個人面談等を通して、それぞれの学生の困り感を把握することで改善に結びつけていきたい。また、学生の適正に合った実習園の配属等の検討も必要かと思われる、より質の高い保育士養成を目指していきたい。

今回初めて「集計ソフト」を試みたが、特に自由記述の内容をまとめることについて、スピーディーで、メリットを感じた。集計ソフトの都合上、前半実習、後半実習、実習園の評価表共通の10の項目についてのみ検討であったが、それらを改善していくことができれば、時間や質的な有効活用ができることを実感した。今後もさまざまな集計ソフトを試しながら、仕事の効率化を図り可視化することで、学生にして学習や実習指導に役立てたい。

## 謝辞

本調査にご協力いただきました学生の皆様、実習に協力いただきました実習園の先生方に心より感謝申し上げます。

## 文献

1. 一般社団法人全国保育士養成協議会編集『保育実習指導のミニマムスタンダード「協働」する保育士養成』ver.2 中央法規
2. 牛込彰彦 .実習における学生の自己評価と実習評価の関係  
埼玉純真短期大学紀要 (8) pp45－50 2015.
3. 牛込彰彦 保育実習における学生の自己評価と実習評価の関係  
埼玉純真短期大学紀要 (6) pp25－39 2013.
4. 岡田恵 保育実習におけるメンタリングを活用した教授法に関する研究 松山短期大学紀要

(50) pp27－32 2019.

5. 集計ソフト [https://www.google.com/search?q=Questant&rlz=1C1KMZB\\_enJP590JP602&oq=Questant&aqs=chrome..69i57j0l5.51708j0j9&sourceid=chrome&ie=UTF-8](https://www.google.com/search?q=Questant&rlz=1C1KMZB_enJP590JP602&oq=Questant&aqs=chrome..69i57j0l5.51708j0j9&sourceid=chrome&ie=UTF-8)
6. 瀧川光治. 本学学生の保育実習の評価の現状と課題(1)―2008,2009,2010年度制の保育実習I(保育所)の実習先からの評価の分析―教育総合研究叢書,5,51-68,2012.